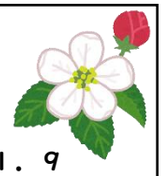
２年 学年だより

No.9

2022. 11. 9

豊中市立第十八中学



インクルーシブ教育　（佐木理人さん）感想

佐木理人さんのお話をふりかえって書いてもらった感想は佐木さんにお送りしました。ここではその中からいくつか紹介します。

●この前、ドラマで目が見えない人の話があって、少しだけそこで知って、今回のお話を聞いてもっと知れたな、と思いました。自分は前白い杖を持っていた人を見かけて、その時に道を譲ることができなくて、これからそれ以上のことをしようと思いました。

●目が見えなくなると、生活が不便になったり精神的にもダメージが来て、生きるのがつらくなったりするときがあったと思うけど、佐木さんは乗り越えて社会をよりよくしようと頑張っている姿を見て尊敬しました。佐木さんのお母さんや周りの人はとてもいい人だな、と思いました。佐木さんの話を聞いて、私も勇気を出して困っている人を助けたいなと思えました。いろんな人が住みやすいよりよい社会にするために私も働きたいなと思いました。

●たまに道を歩いていると、杖を突いて不自由な方もいて、今までは何もしていなかったけど、今日のお話を聞いて自分も少し何かをしてみたいなと思いました。難しいかもしれないけど、話しかけてみるとか、教えてあげたりしたらその人にとってもうれしいと思うので積極的にしていきたいと思いました。小さなことでも点字ブロックの上にも荷物があるとどけてあげたりしたら、その人にとっても危険なものがなくなるのがいいことだと思うので、見つけたらどけていこうと思います。

●仕事をしている映像について、最初パソコンで打って、点字に変えて、チェックして印刷して折る、っている作業が全部細かくて、手作業だったしすごいと思った。最後の方に話していた、誰かの役に立ちたいというのに自分も、自分がしたことで元気になったりするのがうれしいから、将来、仕事とかで誰かの役に立ちたいと思った。

●裁判を起こしたり、いろいろな人のために動いている行動力がとてもすごいと思いました。駅で事故にあったとき、周りの人が「危ない」などと声をかけていたら、事故を防ぐことができたかもしれないとおっしゃっていて、私は危ない時に声をかけるのに限らず、信号が変わったのに気づいていない人や困っている人に積極的に声をかけれるような人になりたいと思いました。今日佐木さんのお話を聞いて、世の中にはたくさん困っている人がいることや、私のような目の見える人にとっては便利なものが目が見えない人にとっては不便なものがあると知りました。

●佐木さんが電車にぶつかって大けがをした後、電車のホームに柵をつけてほしいと裁判を起こしたと聞いて、私だったらそんな勇気なんてないし、目が見えないから仕方ないなと思っていたと思います。でも、佐木さんが裁判を起こしたおかげで電車のホームに柵が付き、しっかりとした対策が取られたからけがをする人や命を失う人が減ったのだと思うと、佐木さんには感謝しかありません。そして佐木さんのおかあさんが佐木さんと一緒に死のうとしたときに佐木さんが「人の役に立ちたいから死ねない」と言っていたことに感動しました。今度目の見えない人に会ったら、「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけられるようにしたいです。

●自分は目が見えるけれど、地下鉄ホームに柵があるととても安心できる。目が見えないとより電車や車などいろいろなものにぶつかる危険性もあるので、街を歩くのが恐怖でしかないと思った。いろいろな補助アプリがあると言っていたがそれでもまだ日本、世界は盲目の人が住みやすい環境であるとは言えないと思う。もっと地下鉄のホームの柵のように少しずつ小さなことでも改善していけば住みやすい街、世界がつくれると思う。佐木さんが「頑張る必要はない」と言っていたが、自分もその通りだと思う。目が見える人でも頑張り続けたらとてもしんどくなるのに、生活を送るにもいまだに不便な人はもっとしんどくつらいと思う。ただ、生活を送るのに不便な人が普通の生活を送るのを断念するというのは違うと思った。どんな人でも楽しく便利な人生を送ることを求めていいと思う。

●今日話を聞けて本当に良かったなと思いました。白い杖をついて歩いている人を見たら、話しかけるようにします。「大丈夫ですか」とは聞かないようにします。点字新聞というのを初めて知った。点字新聞をつくるのは大変だなと思いました。最後の質問で答えていた、お金を入れる場所が全部違うところに入れていると知ってすごいなと思った。自分の目が見えなくなってしまったら、何もできないなと思いました。点字を読めるようになってみたいなと思いました。

●最後の話を聞いて、少し前までは目が見えないことは不自由で、他の人と同じようにクラスにはたくさんの壁があったから、お母さんは死を考えるくらい悩んだのかもしれないけど、今は目が見えない人も快適に生きれる社会だから少しずつよくなっているんじゃないかと思った。「自分は一人じゃない、たくさんの人が支えてくれる」って言うのは、自分はあまり実感する場面はあまりないけど、目が見えづらかったりするといろいろな場面で感じられると思うから自分もたくさんの人に支えられていると感じながら生活しようと思いました。

●佐木さんのように目が見えない人、耳が聞こえない人、手足が動かない人、いろんな人がいるかもしれません。だからこそ、そんな人たちにも合わせた生活ができるように、いろいろな工夫がされています。ただ、全部が全部改善されているわけではないので、まだ「こんな時に困ってしまうな」なんて思う人がたくさんいるかもしれません。だからこそ、ひと声かけて手助けすることが大事なんだなと思いました。

●１時間くらいあったはずなのに、飽きずに聞けるお話でした。ずっと手元でカチャカチャしているのは何だろうと気になっていたので、説明してもらえてうれしかったです。点字を読んでいるときに話を止めずにしゃべれていたのがすごいと思いました。白い杖が折りたためるのを知ってとても驚きました。点字新聞があることも、それが百年続いていることも初めて知りました。点字を印刷する機械も初めて見ました。蛍池駅にはホームドアも柵もないのでつけてほしいと思いました。白い杖を持っている人に話しかけるのは少し勇気がいるけれど、迷惑じゃないのなら今度見かけたら声をかけてみようと思いました。いろいろな人のためにもっと安全な駅にしていかないといけないと思いました。

●今日の佐木さんのお話を聞いて、私はいろいろなことを学べたと思いました。まず、盲目の人を見つけた時に、どう声をかければよいのか。お話を聞く前までは、「大丈夫ですか」と声をかけるのが当たり前と思っていました。でも、声をかけられる側の気持ちになったことがなかったので、「大丈夫ですか」より「何かお手伝いすることはありますか」と言った方がなんだか少しでも言いやすくなった気がすることを知りました。ほかにも～する側より～される側の気持ちになったほうが良い事例もあるんだろうなと思い、いろいろ考えるきっかけになりました。

●「自分は一人じゃないと感じてほしい」と言っていました。その通りだなと思います。目が見えないということは、自分が思うよりも辛くそして寂しいものだと思います。しかし、そんなときに身の回りに人がいてくれたら、困ったときは助けてもらったり、辛い時は話し合ったり、何より近くに大切な人がいるというだけで安心感があると思います。また目が見えないということだけじゃなく他に障害がある人などもたくさんあります。そんな人たちを将来は自分たちが支え合わなければならないと思いました。

たくさんある中の一部だけですが、どの感想からもしっかり聞いてしっかり受け止めていることが伝わってきました。
これまでも誰もが安心できる社会づくりについてたくさん考えてきました。それに基づいて考えることができたと思います。「佐木さんとの出会い」「点字毎日との出会い」で得られたことがたくさんありましたね。

※佐木さんとのんさんとの対談が YouTube で見られますので、「毎日新聞　佐木理人のん」で検索してみてください。